

健康横浜21推進会議 食育推進検討部会委員名簿

令和4年7月時点

	役職	氏名	所 属	健康横浜21 推進会議
1	部会長	金子 佳代子	横浜国立大学 名誉教授	臨時委員
2		飯笹 光男	NPO法人 横浜ガストロノミ協議会 理事長	臨時委員
3		井上 恒次	一般社団法人 横浜市食品衛生協会 副会長	臨時委員
4		岩本 かをり	公益社団法人 神奈川県栄養士会	臨時委員
5		植木 美子	一般社団法人 ラシク045	臨時委員
6		大久保 辰雄	一般社団法人 横浜市医師会 常任理事	臨時委員
7		金子 勝巳	公益財団法人 よこはま学校食育財団 理事長	臨時委員
8		君塚 義郎	株式会社 崎陽軒 常務取締役	臨時委員
9		菅 千明	はまふうどコンシェルジュ	臨時委員
10		長島 由佳	ユカナガシマ・クッキングサロン	臨時委員
11		西田 悦子	JA横浜 組織部 組織生活課 課長	委員
12		福留 秀樹	横浜市場プロモーション委員会 副会長	臨時委員
13		望月 選	一般社団法人 F・マリノススポーツクラブ 理事	臨時委員
14		望月 悟	一般社団法人 横浜市歯科医師会 常任理事	臨時委員
15		米山 かおる	横浜市食生活等改善推進員協議会 会長	委員

食育推進関係課長会議 委員名簿

令和4年7月時点

	区 局	補 職	課長
1	金沢区	福祉保健課長	平 佳子
2	保土ヶ谷区	こども家庭支援課長	大吉 進
3	経済局	中央卸売市場本場経営支援課長	山田 卓
4	こども青少年局	企画調整課長	田口 香苗
5	こども青少年局	保育・教育支援課 人材育成・向上支援担当課長	野澤 裕美
6	こども青少年局	地域子育て支援課 親子保健担当課長	戸矢崎 悦子
7	健康福祉局	企画課長	粟屋 しらべ
8	健康福祉局	食品衛生課長	牛頭 文雄
9	健康福祉局	保健事業課健康づくり担当課長	岩松 美樹
10	環境創造局	農業振興課長	朝倉 友佳
11	資源循環局	3R推進課長	津島 邦宏
12	教育委員会事務局	健康教育・食育課首席指導主事	仁平 浩史

事務局（保健事業課）

局	補職	氏名
健康福祉局	健康安全部健康推進担当部長	嘉代 佐知子
	保健事業課健康づくり担当課長	岩松 美樹
	保健事業課担当係長	山崎 信也
	係員（事務職）	榎田 佳那子
	係員（栄養士）	鈴木 礼子
	係員（栄養士）	山田 薫

食育推進検討部会設置要綱

制定 令和 3 年 3 月 23 日 健保事第 4009 号 (局長決裁)

(目的)

第 1 条 この要綱は、食育の推進に関して専門的見地から検討するため、健康横浜 2 1 推進会議運営要綱（以下「要綱」という。）第 7 条第 1 項に基づき設置する「食育推進検討部会」（以下「検討部会」という。）の運営に関し必要な事項について定めるものとする。

(検討事項)

第 2 条 検討部会は、次の事項について検討を行うものとする。

- (1) 食育推進計画の策定に関する事項
- (2) 食育の推進に関する事項
- (3) その他必要な事項

(構成)

第 3 条 検討部会は、要綱第 7 条第 2 項に基づき、健康横浜 2 1 推進会議（以下「推進会議」という。）の委員及び要綱第 4 条に基づき市長が任命した臨時委員のうちから推進会議の会長が指名する者をもって組織する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年以内とする。ただし、委員に欠員が生じた時の補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

(部会長等)

第 5 条 検討部会に部会長及び副部会長を置く。

- 2 部会長は、委員の互選によりこれを定める。副部会長は、委員の中から部会長が指名する。
- 3 部会長は、検討部会を代表し、会務を掌理する。
- 4 副部会長は、部会長が欠けたとき、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 検討部会の会議は、部会長が招集する。ただし、委員任命後、部会長選出前の検討部会の会議は、推進会議の会長が招集する。

- 2 部会長は、検討部会の会議の議長とする。
- 3 検討部会は、委員の過半数の出席により開催する。
- 4 検討部会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、検討部会の部会長の決するところによる。

5 検討部会を欠席する予定の委員は、第2条に関する意見を書面により事前に提出することができる。

(会議の公開)

第7条 横浜市の有する情報の公開に関する条例（平成12年2月横浜市条例第1号）

第31条の規定により、検討部会の会議については、一般に公開するものとする。ただし、委員の承諾があれば、会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

(意見の聴取等)

第8条 部会長は、検討部会の運営上必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

(推進会議への報告)

第9条 検討部会は、会議内容を推進会議へ報告するものとする。

(守秘義務)

第10条 委員及び関係者は、検討部会の運営上知りえた秘密を厳守するとともに、これを他に利用してはならない。

(庶務)

第11条 検討部会の庶務は、健康福祉局保健事業課において処理する。

(委任)

第12条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、部会長が検討会の会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和3年3月23日から施行する。

食環境整備検討会の検討状況

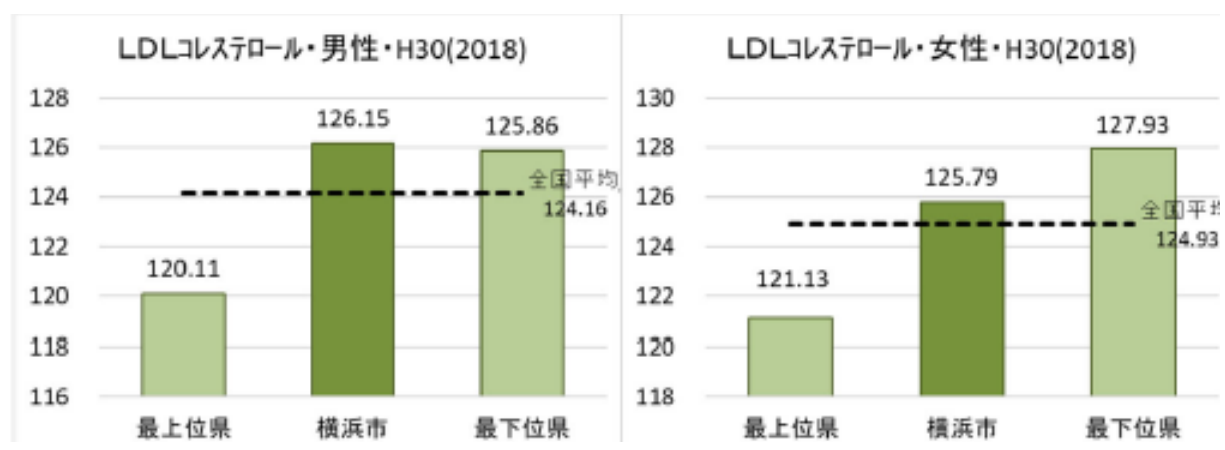
1. 食生活分野における現状と課題
2. 食環境づくりの目指す方向性
3. 食環境整備検討会における検討状況

特定健診における脂質異常症（LDLコレステロール）

<脂質異常症の状況>

- ・血圧や血糖に関する特定健診の検査結果については、全国値と比較すると比較的良好なデータが多い。
- ・脂質異常症については、薬を服用している人は全国値よりも少ない傾向だが、**LDLコレステロールの値は男女共に高い(悪い)状態。**

いわゆる「悪玉コレステロール」

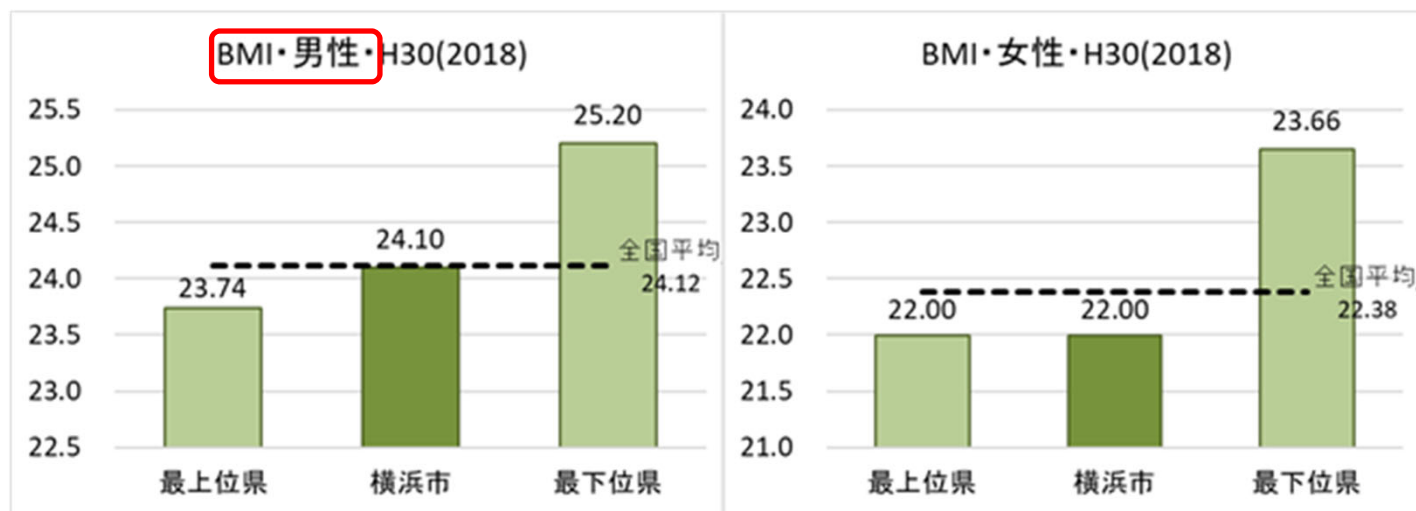


厚生労働省：NDBオープンデータ 平成30年度特定健診

特定健診における男性の肥満

<健康状態>

- ・特定健診の検査結果については、全国値と比較すると比較的良好なデータが多い中で、男性の肥満（BMI、腹囲、体重増加）については、全国並み。



厚生労働省：NDBオープンデータ 平成30年度特定健診

食生活分野における現状と課題（1）

■ 第2期健康横浜2 1 最終評価

ライフステージ	行動目標	総合評価
育ち・学び	3食しっかり食べる	B 変化なし
働き・子育て、稔り	野菜たっぷり・塩分少なめ	A 目標に近づいた
	バランスよく食べる	C 目標から離れた

- ✓ 3つの行動目標の数値変化がそれぞれ異なる結果となった
- ✓ 1日の野菜の摂取量、食塩摂取量は目標に近づいたが、
バランスよく食べる人は減少した

食生活分野における現状と課題（2）

■ 第2期食育推進計画振り返り

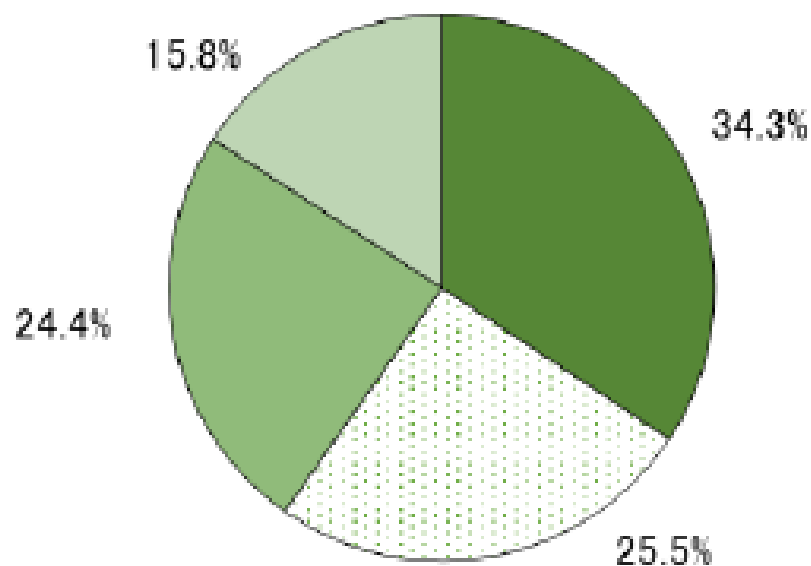
推進テーマ	数値目標	総合評価
栄養バランスのよい食生活の推進	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合	C 目標から離れた
	朝食を欠食する市民の割合	B 変化なし
	一日の食塩摂取量	A 目標に近づいた
	栄養や食事の作り方等を知ることについて、関心があり継続できている市民の割合	B 変化なし

✓ 4つの数値目標の数値変化がそれぞれ異なる結果となった

✓ 1日の食塩摂取量は目標に近づいたが、
バランスよく食べる人は減少した

【参考】主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日

1日2回以上、主食・主菜・副菜をほぼ毎日食べる者の割合は、41.3%（平成25年度）から34.3%（令和2年度）に減少している。



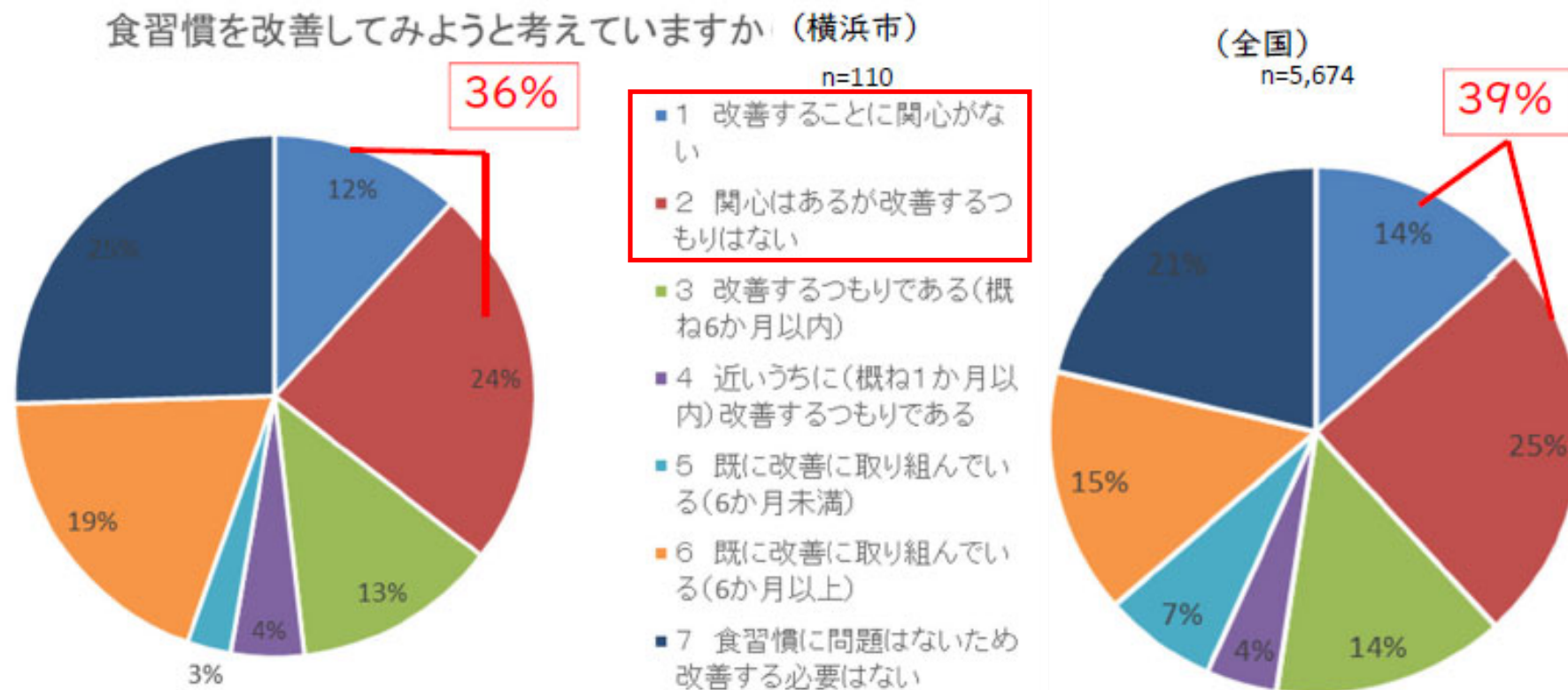
■ 毎日食べる □ 週4~6日食べる ■ 週2~3日食べる □ ほとんど食べない

N=12,450

出典：令和2年度 健康に関する市民意識調査（横浜市健康福祉局）

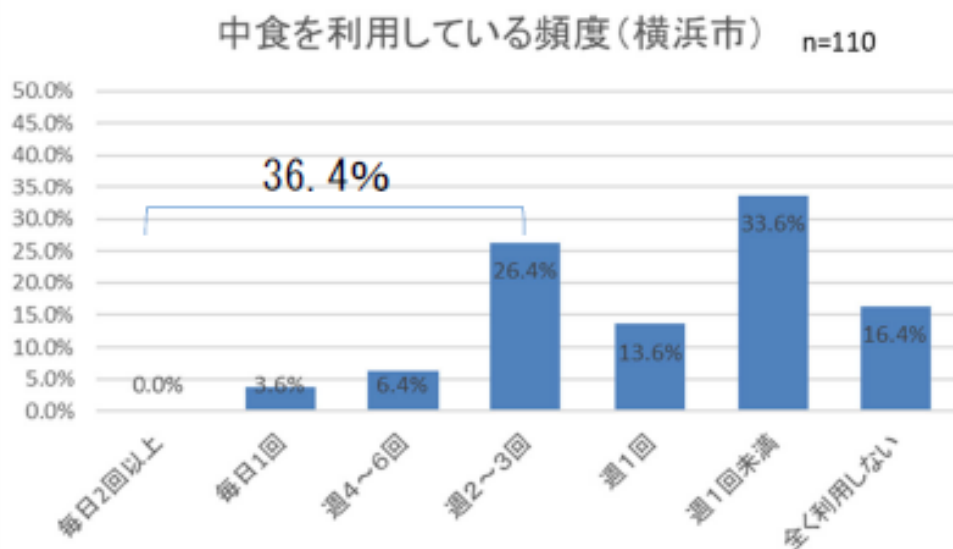
【参考】食習慣改善の意思（横浜市・全国）

約4割の人が食習慣の改善に無関心または取り組むつもりがない

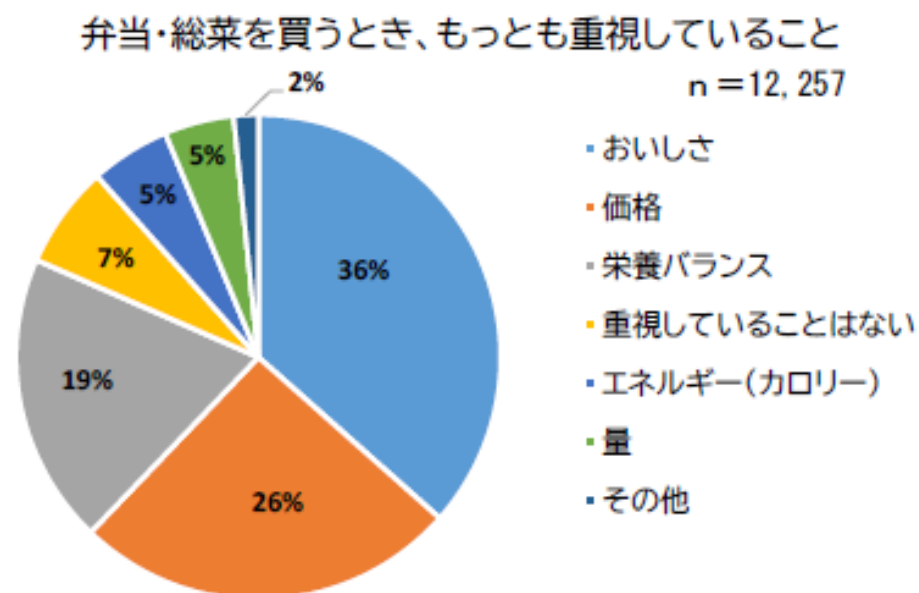


【参考】中食の利用頻度、購入時に重視すること

約4割の人が週2回以上、中食（持ち帰り弁当や総菜）を利用している



令和元年国民健康・栄養調査 生活習慣調査 問1・問2 より

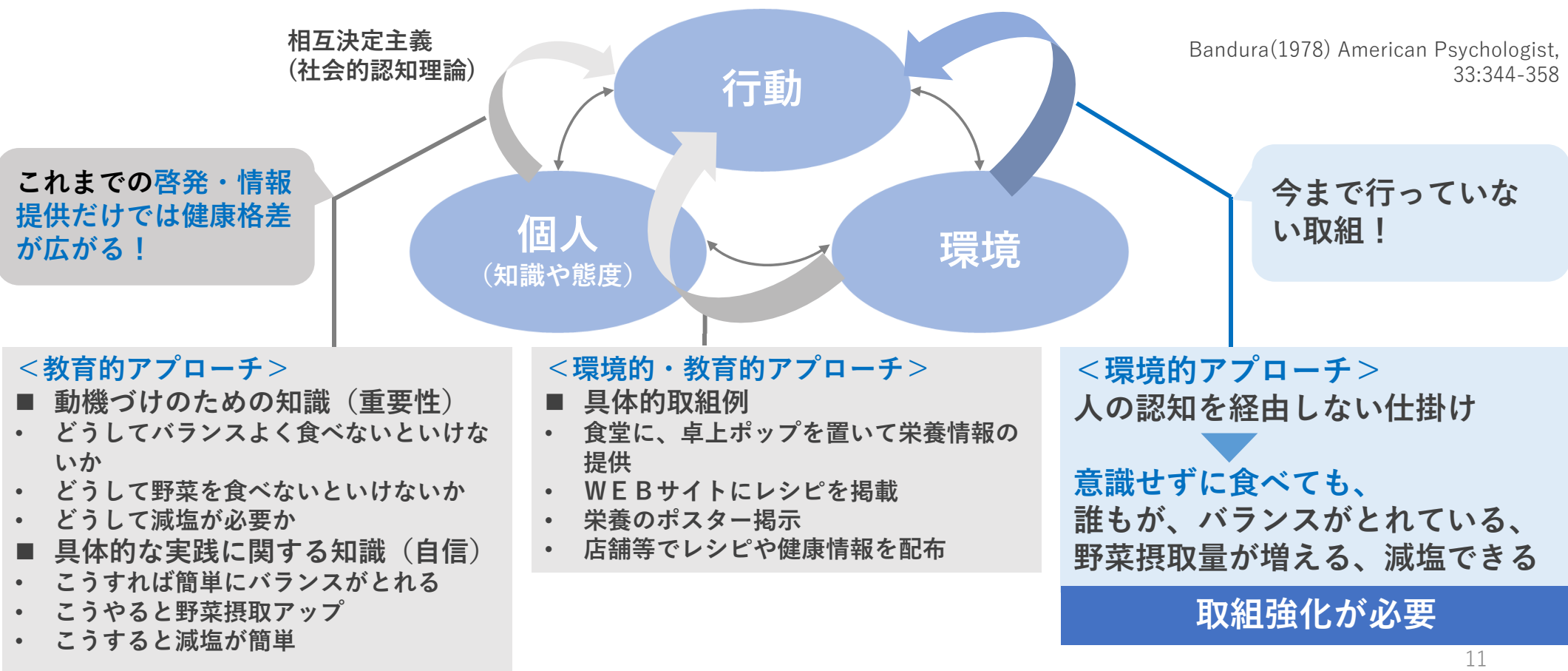


令和2年度健康に関する市民意識調査より

1. 食生活分野における現状と課題
2. 食環境づくりの目指す方向性
3. 食環境整備検討会における検討状況

横浜市において今後必要となる取組

目標 **誰もが**（関心がある人も、関心がない人も）
○栄養バランスよく食べる ○野菜を食べる ○食塩を控える **行動をする**



【食環境づくり】

現状・課題	目指す姿
<ul style="list-style-type: none"> ・従来の取組は情報提供による教育的な啓発が中心（情報に触れる機会や理解の差が、健康格差を助長する可能性あり） ・健康無関心層を踏まえた環境整備の取組が不足 ・誰もが健康に必要な食事の内容と量を自然と選択できるような食環境が必要 	市民の誰もが自分にあった、健康的な食事を選択できる環境になっている。

目標	指標（直接成果）	直近値	目標値
誰もが栄養バランスのよい食事ができる食環境を整える	栄養バランスのよい食事を選択できる環境づくりに資する取組を行っている店舗数		今後検討

取組対象/テーマ	取組内容	視点
関係機関	産学官連携で、誰もが健康的な食事ができる食環境づくりを推進。	③健康無関心層に重点 ④環境の創出と利活用 ⑤人と人とのつながり ⑨産学官連携・共創
食品関連事業者	食環境づくりの枠組みの整備	
食品関連事業者	企業向けPR及び研修会等の開催	

戦略2 『誰もがいきいきと生涯活躍できるまちづくり』

市民の健康づくりと安心確保

政策7

◎ 主な施策

1	健康的な生活習慣の定着と健康を守り支える環境づくり	主管局	健康福祉局、 医療局、道路局
<p>年齢や疾病・障害の有無等、個々の状態に応じた健康維持、生活習慣病予防、疾病の重症化予防に向け、計画的・継続的な健康づくりの取組を促進します。よこはまウォーキングポイントや健康みちづくり等の健康づくりの場を創出するほか、<u>自然と健康になれる食環境</u>や受動喫煙防止対策など、健康を守り支える環境づくりに取り組みます。また、健康診査等のデータを分析し健康づくりの支援に活用することで、個人の健康意識の向上や行動変容につなげます。</p>			

横浜市の食環境づくりの目指す方向性

健康に関心がある人もない人も、
市民の誰もが栄養バランスのよい
健康的な食生活を実践できるようにするため

食習慣の
無関心層
約4割

週2回以上
中食利用
約4割

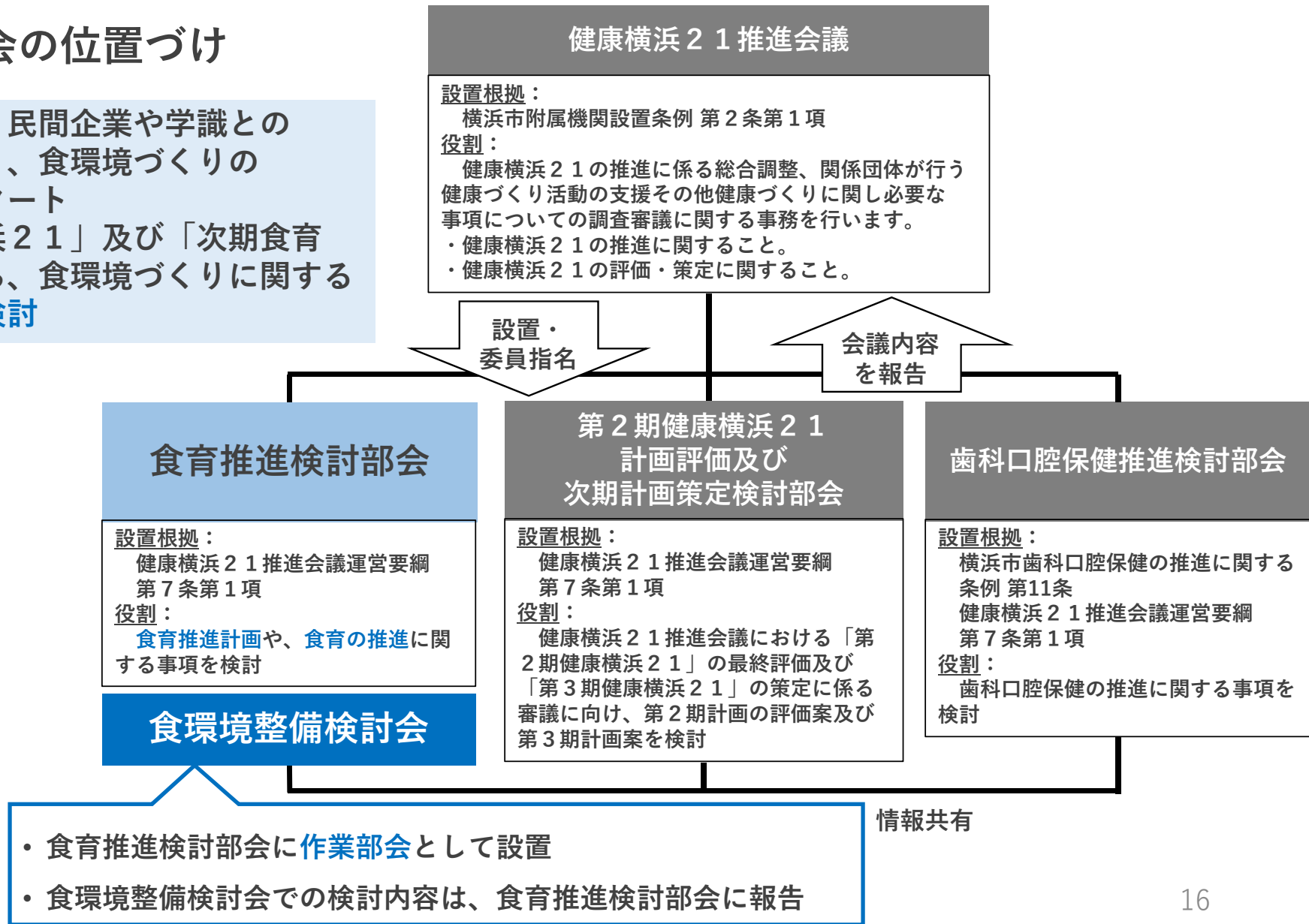
- 「健康を意識せずに、いつもお店で買っている食品が、
栄養バランスのよい健康的な商品になっていた」
- 「食べ続けていたら、知らず知らずのうちに健康になった」

そのような横浜市の食環境を産学官の連携で共に創っていく

1. 食生活分野における現状と課題
2. 食環境づくりの目指す方向性
3. 食環境整備検討会における検討状況

食環境整備検討会の位置づけ

- 令和4年度から、民間企業や学識との**産学官連携**により、食環境づくりの取組の検討をスタート
- 「第3期健康横浜21」及び「次期食育推進計画」のうち、食環境づくりに関する**具体的な取組を検討**



食環境整備検討会 委員

健康横浜21推進会議委員、食育推進検討部会委員、包括連携協定締結企業、学識経験者計6名（小売事業者4社）

	氏名	所属・補職名	健康横浜21 推進会議	食育推進 検討部会委員
部会長	金子 佳代子	横浜国立大学 名誉教授	臨時委員	○
	赤松 利恵	お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系 教授	臨時委員	—
	影山 昌弘	株式会社セブン・イレブン・ジャパン 総務法務本部 総合渉外部 京浜ゾーン 兼 西神奈川ゾーン マネジャー	臨時委員	—
	梶村 直之	株式会社ダイエー ICT戦略本部 マーケティング部 部長	臨時委員	—
	君塚 義郎	株式会社崎陽軒 常務取締役	臨時委員	○
	吉田 章	日本チェーンストア協会 相鉄ローゼン株式会社 経営管理本部 人事部 マネージャー	委員	—

※ 他に、アドバイザーとして、2名が参加
（株式会社セブン・イレブン・ジャパン 圖司氏、株式会社ダイエー 持田氏）

食環境整備検討会 開催経過

検討会を3回開催し、「中食」（お弁当や総菜等）について、モデル事業の実施内容や効果検証方法を検討

回数	開催日	主な議事
1	6月22日	横浜市における食環境整備の推進について (1) 横浜市の食生活分野における現状と課題 (2) 食環境整備の重要性 ～行動へ直接働きかける環境整備～ (3) 横浜市の食環境整備の方向性と取組の検討
2	9月21日	横浜市での食環境づくりの取組について (1) 取組内容 (2) 効果検証の方法 (3) スケジュール
3	11月17日	1 食環境づくりモデル事業について (1) 横浜市の広報・啓発の方向性 (2) 令和5年度モデル事業の実施内容 2 「栄養バランスのよい食事を選択できる食環境づくり」の枠組みについて

※ 令和5年度も3回開催予定

食環境整備検討会 モデル事業の考え方（1）

方針	誰もが（無関心層も含め）栄養バランスよく食べるための取組
目標	栄養バランスのよい食事を選択できる環境になっている
内容	弁当の提供（安い、おいしい、栄養バランスがよい）
ターゲット層	20～60歳男性（脂質異常症が多い、肥満の割合が全国平均）

基準（案）	必須	① エネルギー 650～850Kcal ② 主食（ご飯150～200g）＋主菜（肉・魚・卵・大豆製品） ＋副菜（140g以上）が揃っている ※ 副菜：野菜、いも類、きのこ類、海藻類
	努力目標	③ 脂質のエネルギー比（脂質20～30%） ④ 食塩摂取量 3.5g未満 ※ 横浜市の食塩摂取量平均値9.9gの1/3は3.3g ⑤ 手ごろな値段

- ①～⑤の基準を企業に提示し、検討してもらったところ、すべてを充たすのは難しいとの意見が多かった



- はじめの一步を踏み出してもらうことがまずは重要との観点から、①と②は必須、③～⑤は努力目標とする基準を再提示

モデル事業実施にあたっての課題と対応

課題

- 健康的な弁当は「おいしくない」というイメージがあり、**売上面での懸念**がある
- 継続的に取組を行っていくためには、**社内での理解**が必要



対応

- 販売する弁当の認知度向上を図るため、**モデル事業の広報・プロモーション**を実施
- 市民の意識改革を促すため、「**栄養バランスのよい食事の重要性**」に関する啓発を重点的に実施
- **モデル事業の評価・分析**を実施

モデル事業とタイミングを合わせて、市民向けの啓発も重点的に実施し、食環境づくりの機運を醸成

モデル事業の
広報・PR



市民向けの
啓発

<手段例>

- 広報紙（広報よこはま）
- 記者発表
（市政記者への資料配付/リリース拡散サービス）
- 市公式アカウントでの発信
（LINE、Twitter、スマートニュース等）
- 広報テレビ番組（tvk ハマナビ）
- 店頭・区役所等でのポスターやのぼり旗の掲示
- チラシ・リーフレットの配布
- 市役所内への広報・PR

- 「栄養バランスのよい食事」について、子どもにもわかりやすい説明媒体やロゴマーク等の作成
- ホームページ等を活用した啓発

概要

赤松委員（お茶の水女子大学）の研究室に委託し、
モデル事業の評価分析を行うことを想定

評価分析内容は、モデル事業の実施内容が決まり次第、
赤松委員と相談

【想定内容】

- ・ 売上（個数）：売れ筋の弁当との比較
- ・ 購入年代、性別
- ・ 購入者からの声：アンケート（電子申請・紙媒体）を活用

横浜市食育推進事業の新ロゴマークについて（報告）

1 趣旨

令和4年12月16日付のメールにて意見照会を行いました「横浜市食育推進事業の新ロゴマーク」について、御意見をいただきありがとうございました。意見照会結果を踏まえ、C案を基に、いただいた御意見を踏まえた修正を加え調整を進めています。

2 意見照会でいただいた主な意見

ロゴマーク案	いただいた御意見（要約）
A案	<ul style="list-style-type: none">・カラフルで親しみやすく、3案の中で最も目に留まりやすい。・「食」に関連するロゴであることが分かりやすい。・単色になると、おにぎりとお目玉焼きが分かりにくい。・ごちゃごちゃした印象を受けるので、食材の数や使用している色を減らすともう少し見やすくなるのでは。・パンはクロワッサンでよいか、食パンの方が一般的ではないか。
B案	<ul style="list-style-type: none">・カラーの良さが発揮されてない。モノクロ利用が多いならB案でも良い。・さっぱりしているが、未就学児～高齢者の幅広い世代にわかるデザイン。・もう少し色を塗った部分があるとより目立つと思う。
C案	<ul style="list-style-type: none">・商品にシール等で添付する場合、シンプルかつ横浜らしさがわかるC案が消費者に最も伝わりやすい。・円形より横長の方がA4紙面等に掲載しやすい。・小麦のイラストは、稲ではどうか。もしくは横浜で収穫量の多い小松菜などはどうか。・全体を線で四角く囲った方がマークらしい。・観覧車の代わりに、日本丸（船）のデザインも良いのでは。

3 新ロゴマークについて

いただいた御意見等を踏まえ、C案を基に作成を進めていきます。

(1) コンセプト

横浜の街並みから海までを1本の線につなげ、代表的な主食（稲）・主菜（魚）・副菜（トマト）を自然な流れで配置し、食が普段の生活とつながっていることを表現しています。

(2) C案を選んだ理由

次期食育推進計画では、第2期計画で取り組んでいた「食に関する正しい知識の普及啓発」に加え、「食環境づくり」として、健康無関心層への働きかけを進めます。

そこで、候補3案の中で「食」と「環境」のつながりが視覚的に分かりやすいC案を基に調整を進めていくこととしました。

(3) 意見照会時からの修正点

- ・食育に関するロゴマークということが分かるよう、「食育よこはま」という文字を追加。
- ・小麦のイラストを稲に変更。

(4) 今後の修正事項

- ・「YOKOHAMA」の文字の大きさを修正。
- ・稲のイラストについて首を垂れるようなものに修正。

4 今後のスケジュール

～令和5年1月下旬	意見照会結果やデザイン業者との調整を踏まえ、 新ロゴマーク完成
2月頃	食育推進検討部会委員及び食環境整備検討会委員へ 完成した新ロゴマークについて共有
4月～	新ロゴマークの使用開始 ※利用案内を作成後、改めて使用方法等についてご連絡します。

次期横浜市食育推進計画 計画期間：令和6年度(2024)～令和17年度(2035) 12年間

		健康横浜 2 1	健康に関する市民意識調査	国・県
	令和3年度(2021)	(第3期以降は歯科口腔保健推進計画及び食育推進計画と一体的策定)		第4次食育推進基本計画(国)
	令和4年度(2022)			
	令和5年度(2023)	第3期計画策定	R6年1月頃：策定時値	第4次神奈川県食育推進計画
1	令和6年度(2024)	計画期間スタート		
2	令和7年度(2025)	前半推進/年度単位の取組の振り返り		第5次食育推進基本計画(国)
3	令和8年度(2026)			
4	令和9年度(2027)		第5次計画の内容を反映	
5	令和10年度(2028)	中間評価作業に着手	R10年7月頃：中間評価値	第5次神奈川県食育推進計画
6	令和11年度(2029)	中間評価パブコメ→確定公表		
7	令和12年度(2030)	中間評価を踏まえた取組の強化		
8	令和13年度(2031)	後半推進/年度単位の取組の振り返り		
9	令和14年度(2032)			
10	令和15年度(2033)	最終評価作業に着手	R15年7月頃：最終評価値	
11	令和16年度(2034)	最終評価公表 ↓ 第4期計画策定作業に着手		
12	令和17年度(2035)	第4期計画策定		

次期食育推進計画における推進テーマごとの取組内容について

推進テーマ	市の目標	対象世代	関係機関・団体の取組	関係機関・団体	行政としての取組	関係局
栄養バランスに配慮した食生活の推進	1 朝食を欠食する市民を減らす	育ち・学びの世代	・「朝食を欠かさず食べよう！」をテーマに小学校、中学校でのスポーツを通じた食育活動を実施 ・毎年6月に「歯と口の健康週間行事」において、簡単に作れる朝食レシピの紹介 ・食育教室や講座、部活動や居場所づくりのカフェ等を通じて啓発を実施	横浜マリノス（株） 横浜市歯科医師会 ユカナガシマクッキングサロン	・妊婦や乳幼児期の保護者に対し、区役所等の健診、個別相談及び教室等を通じて、規則正しい食生活の普及啓発を実施 ・学校、保育所等での給食等を通じた食育の実践	こども青少年局 健康福祉局・区 教育委員会事務局
		働き・子育て世代	・朝食の大切さや楽しさを店舗や講習会などで伝えている。 ・毎年6月に「歯と口の健康週間行事」において、簡単に作れる朝食レシピの紹介 ・食育教室や講座等を通じて啓発を実施	横浜ガストロノミ協議会 横浜市歯科医師会 ユカナガシマクッキングサロン	・生活習慣病予防や生活習慣病の重症化予防のため、区役所の個別相談や講座等の中で規則正しい食生活の普及啓発 ・地域・職域連携により事業所の健康経営を支援するため、専門職を派遣し、従業員に対し適正体重の維持、規則正しい食生活及び栄養バランスのよい食事の普及啓発を実施 ・給食だよりを通じて、朝食を食べることやその効果、朝食メニューのアドバイス	健康福祉局・区 こども青少年局
		稔りの世代			・生活習慣病、フレイル及び低栄養を予防するため、区役所等の個別相談、講座等を通じて規則正しい食生活の普及啓発を実施	健康福祉局・区
		全世代	・朝食の大切さや3食しっかり食べることを講座等を通じて伝えている。	横浜市食生活等改善推進員協議会	・スーパー、商店街、企業等と連携し、生活場を通して、知識の普及啓発を実施 ・イベントや出前講座を通じて、食生活や体づくりに関する啓発を実施 ・栄養バランスのよい食事のレシピをホームページ上で情報提供 ・地域団体等と連携し、講座等を通じての規則正しい食生活及び栄養バランスのよい食事の普及啓発を実施	市民局 経済局 こども青少年局 健康福祉局・区 教育委員会事務局
	2 栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす	育ち・学びの世代	・親子対象に、栄養バランスに配慮した食事ができるよう、調理実習と食育講座を組み合わせた教室の開催。 ・中学校での食育教室で『成長期は特にバランス良い食事を心がけよう』について講演を行う ・食育教室や講座、部活動や居場所づくりのカフェ等を通じて啓発を実施	よこはま学校食育財団 横浜マリノス（株） ユカナガシマクッキングサロン	・妊婦や乳幼児期の保護者に対し、区役所等の健診、個別相談及び教室等を通じて、栄養バランスのよい食事の普及啓発を実施 ・学校、保育所等での給食等を通じた食育の実践	こども青少年局 健康福祉局 教育委員会事務局
		働き・子育て世代	・ホームページを活用した給食の料理レシピ等の情報発信により、栄養バランスに配慮した食事の在り方を伝える。 ・口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修会の実施 ・保育所等職員に対して乳幼児保健研修会の実施	よこはま学校食育財団 横浜市歯科医師会	・生活習慣病予防や生活習慣病の重症化予防のため、区役所の個別相談や講座等の中で栄養バランスのよい食事の普及啓発 ・地域・職域連携により事業所の健康経営を支援するため、専門職を派遣し、従業員に対し栄養バランスのよい食事の普及啓発を実施 ・給食だよりを通じて、おやつや清涼飲料水の取り方、夏バテや風邪防止の食事等を紹介	こども青少年局 健康福祉局・区
		稔りの世代			・生活習慣病、フレイル及び低栄養を予防するため、区役所等の個別相談、講座等を通じて正しい食生活の普及啓発を実施	健康福祉局・区
		全世代	栄養バランスに配慮した食事ができるよう、講座等を通じて伝えている。	横浜市食生活等改善推進員協議会	・スーパー、商店街、企業等と連携し、生活場を通して、知識の普及啓発を実施 ・イベントや出前講座を通じて、食生活や体づくりに関する啓発を実施 ・栄養バランスのよい食事のレシピをホームページ上で情報提供	市民局 経済局 こども青少年局 健康福祉局・区 教育委員会事務局
	3 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持を実践する市民を増やす	育ち・学びの世代	・食育教室や講座、部活動や居場所づくりのカフェ等を通じて啓発を実施	ユカナガシマクッキングサロン	・妊婦や乳幼児期の保護者に対し、区役所等の健診、個別相談及び教室等を通じて、適正体重や規則正しい食生活及び啓発を実施 ・学校、保育所等での給食等を通じた食育の実践	こども青少年局 健康福祉局・区 教育委員会事務局
		働き・子育て世代	・生活習慣病健診や人間ドックを推進し、若い世代の健診受診率向上を図る運動を展開 ・イベント等で生活習慣病予防対策を中心に展示、資料配布等を実施	J A横浜 横浜市歯科医師会	・生活習慣病予防や生活習慣病の重症化予防のため、区役所の個別相談や講座等の中で適正体重の維持や規則正しい食生活の普及啓発 ・地域・職域連携により事業所の健康経営を支援するため、専門職を派遣し、従業員に対し適正体重の維持や規則正しい食生活及び普及啓発を実施	健康福祉局・区
		稔りの世代	・歯周病検診や歯科健診、歯周病や生活習慣病についてのセミナーを開催	横浜市歯科医師会	・生活習慣病、フレイル及び低栄養を予防するため、区役所等の個別相談、講座等を通じて、適正体重の維持や規則正しい正しい食生活の普及啓発を実施	健康福祉局・区
		全世代	・健康保険組合等（厚生連）と連携し、生活習慣病健診や人間ドックを推進し、病気の早期発見につとめる ・生活習慣病予防のための食生活や適正体重の維持について、講座を通じて伝えている	J A横浜 食生活等改善推進員協議会 神奈川県栄養士会	・スーパー、商店街、企業等と連携し、生活場を通して、知識の普及啓発を実施 ・イベントや出前講座を通じて、食生活や体づくりに関する啓発を実施 ・栄養バランスのよい食事のレシピをホームページ上で情報提供 ・地域団体等と連携し、講座等を通じての規則正しい食生活及び栄養バランスのよい食事の普及啓発を実施	市民局 経済局 こども青少年局 健康福祉局・区 教育委員会事務局

推進テーマ	市の目標	対象世代	関係機関・団体の取組	関係機関・団体	行政としての取組	関係局	
おいしく楽しくも食べよう	4 朝食又は夕食を家族等と一緒に食べる「共食」の回数を増やす	育ち・学びの世代	・食育教室や講座、部活動や居場所づくりのカフェ等を通じて、「食」の大切さを伝える	ユカナガシマクッキングサロン	・区役所等の健診、個別相談及び教室等の機会をとらえて、家族等と一緒に食事をする機会を通じて、食事の楽しさ、大切さを感じられる取組を実施。	健康福祉局・区	
		働き・子育て世代	・店舗等で家族と共に食する朝食や夕食の楽しさ大切さを伝えている	横浜ガストロノミ協議会			
		稔りの世代					
		全世代	家族と食事をする事は、楽しいことを伝える。	食生活等改善推進員協議会	・区役所の個別相談や教室等の機会をとらえ、家族等と一緒に食事をする機会を通じて、食事の楽しさや大切さを感じられる取組を実施。	健康福祉局・区	
	5 よく噛んで食べることができる市民を増やす	育ち・学びの世代	・保育園健診等の歯科保健指導時に「噛むことの大切さ」を指導	横浜市歯科医師会	・区役所等の個別相談や教室等を通じて、よく噛んで食べることの大切さや歯や口腔機能の正しい知識の普及啓発及び実践につながる取組を実施。 ・園児に給食に出る料理や食材に関するお話しを提供	子ども青少年局 健康福祉局・区	
		働き・子育て世代	・セミナー等で「噛むことの重要性」「口腔機能低下予防」の周知	横浜市歯科医師会	・歯周病予防の重要性や生活習慣病との関連を区役所の個別相談や講座等の中で啓発を実施。 ・地域・職域連携により事業所の健康経営を支援するため、専門職を派遣し、従業員に対し、歯周病予防の重要性、定期的な歯科健診の必要性について普及啓発を実施。 ・給食だよりで、誤嚥、誤飲防止の注意喚起	健康福祉局・区 子ども青少年局	
		稔りの世代	・「口から食べる」を維持できるようにすることを講座等を通じて伝えている。 ・オーラルフレイルに関する教室等への協力	食生活等改善推進員協議会 神奈川県栄養士会	・オーラルフレイルを予防するため、正しい知識の普及啓発を個別相談、講座等を通じて実施。 ・オーラルフレイル予防の啓発チラシ・タペストリー、健口体操の動画作製	健康福祉局・区	
		全世代	・歯科関係のイベントに協力	神奈川県栄養士会	・イベントや出前講座を通じて、「おいしく楽しく食べること」、「お口の健康」に関する啓発を実施。	健康福祉局・区	
自然に健康になれる食環境づくり	6 食育に関心を持っている市民を増やす	育ち・学びの世代	・イベントを通して、農業体験を通して、食の大切さを学ぶ。 ・食育の講演を通して、現在の自分の食生活を振り返り関心を持つような活動を実施 ・「こどもができる簡単料理レシピ集」を作成し料理教室等を開催 ・食育講座や市内中学校で職業講座と製造体験を実施。 ・食育教室や講座、部活動や居場所づくりのカフェ等を通じて、日々の生活における「食」への関心を持たせる工夫を行うことによって、日々の生活そのものが、自分の将来を作り、財産となることを伝えていく	J A横浜 横浜マリノス(株) 神奈川県栄養士会 株式会社 崎陽軒 ユカナガシマクッキングサロン	・学校、保育所等での給食等を通じて、児童・生徒が食事の楽しさ、大切さを感じられる食育の実践。 ・園児に給食に出る料理や食材に関するお話しを提供	子ども青少年局 教育委員会事務局	
		働き・子育て世代	・学校が開催する給食試食会に職員を派遣し、保護者が学校給食について理解を深めることができるよう支援する。 ・旬の野菜を使った簡単な家庭料理の料理教室を開催	よこはま学校食育財団 J A横浜 はまふうどコンシェルジュ	・食育の推進や地産地消、地域の健康づくりを推進する人材の活動支援を実施 ・給食だよりやウェブサイトを通じて、食事に関する情報を発信	子ども青少年局 健康福祉局・区 環境創造局	
		稔りの世代			・食育の推進や地産地消、地域の健康づくりを推進する人材の活動支援を実施	健康福祉局・区 環境創造局	
		全世代	・料理講習会・食のイベントを通して食の楽しさ大切さを伝えている ・イベント等の食育活動やレシピ配布、WEB配信の実施 ・イベントを通じて食育に関する啓発活動を実施	横浜ガストロノミ協議会 食生活等改善推進員協議会 神奈川県栄養士会 横浜市歯科医師会	・区役所の個別相談や教室等の機会をとらえ、家族等と一緒に食事をする機会を通じて、食事の楽しさや大切さを感じられる取組を実施。	健康福祉局・区	
	7 食育の推進に関わるボランティアの数を増やす	育ち・学びの世代					
		働き・子育て世代	・「私たちの健康は私たちの手で」を合言葉に啓発活動等を通して市民に伝え、仲間を増やす活動を行っている	食生活等改善推進員協議会	・食育の推進や地産地消、地域の健康づくりを推進する人材の養成及び支援を実施	健康福祉局・区 環境創造局	
		稔りの世代	・「私たちの健康は私たちの手で」合言葉に啓発活動等を通して市民に伝え、仲間を増やす活動を行っている	食生活等改善推進員協議会	・食育の推進や地産地消、地域の健康づくりを推進する人材の養成及び支援を実施	健康福祉局・区 環境創造局	
		全世代	・ボランティア参加を呼びかけている ・活動を通じて共感者を増やす。	横浜ガストロノミ協議会 ユカナガシマクッキングサロン			
	8 誰もが栄養バランスの良い食事を食べることができる食環境を整える	育ち・学びの世代	・中学校給食へのアドバイスやメニューの開発	横浜ガストロノミ協議会			
		働き・子育て世代			・小学校給食の献立表において栄養成分表示の活用方法を周知啓発	健康福祉局	
		稔りの世代			・産官学連携で、誰もが健康的な食事を食べることができる食環境づくりを推進。 ・イベントや出前教室等を通じて、食生活や体づくりに関する啓発を実施 ・給食施設に対し、研修会や巡回指導を通して、給食利用者の食環境を整える ・栄養成分表示の活用方法に関する市民向けチラシの作成及び配布 ・市Webページにおいて市民向けに栄養成分表示の活用方法を周知啓発	市民局 経済局 健康福祉局・区	

推進テーマ	市の目標	対象世代	関係機関・団体の取組	関係機関・団体	行政としての取組	関係局
地産地消等の推進	9 学校給食における地場産物を活用した取組等を増やす	育ち・学びの世代	・横浜市、JAと連携し、年に一度一斉に市内産野菜を購入して学校給食に提供する。 ・中学校給食へのアドバイスやメニューの開発 ・生産者との懇談会を開催 ・地産地消月間において、「学校給食食材一斉供給」を実施。	よこはま学校食育財団 横浜ガストロノミ協議会 JA横浜	・市民や企業等と連携した地産地消の推進 ・学校給食での市内産農産物の一斉供給や料理コンクールの開催	環境創造局 教育委員会事務局
		働き・子育て世代				
		稔りの世代				
		全世代				
	10 農林漁業体験を経験した市民を増やす	育ち・学びの世代	・イベントを通して、植えて、育てて、収穫して、食べることの大切さを学ぶ。 ・食農体験を取り入れた取組を実施。農業体験などを通じて就労など、キャリア支援につながるような仕組みを検討	JA横浜 ユカナガシマクッキングサロン	・保育所等での栽培や収穫体験を実施	区
		働き・子育て世代				
		稔りの世代				
		全世代	・横浜中央市場とコラボレーションを行いレシピの開発を行っている	横浜ガストロノミ協議会	・収穫体験農園や市民農園の開設支援	環境創造局
	11 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ市民を増やす	育ち・学びの世代	・食育教室や、講座等を通じて自ら食材・食品を知り、知ろうとする学ぶ姿勢を育て、自らの健康や他者への思いやりにつながる大人に育てる	ユカナガシマクッキングサロン		
		働き・子育て世代	・旬の野菜を使った簡単な家庭料理の料理教室を開催 ・横浜中央卸売市場と協働で作成したレシピ集を使用し、離乳食教室の開催や横浜市内の子育て拠点、子育てサロン、子育て広場にてお魚を使う離乳食料理を紹介する	はまふうどコンシェルジュ 神奈川県栄養士会	・給食だよりで横浜地場産野菜や野菜の栄養素を紹介	こども青少年局
		稔りの世代				
		全世代	・横浜中央市場とコラボレーションを行いレシピの開発を行っている ・直売所にて地元の農畜産物を販売 ・クッキング動画を配信することで地産地消のPRにつとめている。 ・レストランにおいて産地の書かれたメニューの提供や市内産の小松菜を使用他。	横浜ガストロノミ協議会 JA横浜 株式会社 崎陽軒	・直売所・青空市等の支援 ・情報誌の発行やInstagram等のSNSを用いた地産地消に関する情報発信	環境創造局
日本の食文化の継承	12 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民を増やす	育ち・学びの世代			・郷土料理や食文化の継承を目的とした企業や団体等による学校での出前教室の実施。 ・「日本の食文化」や「横浜らしい食文化」の理解を深めるため、学校や保育所等において行事食を体験する機会を創出	こども青少年局 健康福祉局
		働き・子育て世代	・ホームページに年中行事と食事に関する食育記事を掲載し、家庭の食事の参考にできる情報を提供している。 ・イベントにて、親子向けにお箸の使い方を豆使いゲームなどを通して、食文化の伝承を行う。	よこはま学校食育財団 神奈川県栄養士会	・給食だよりで伝統料理や食事のマナーを紹介	こども青少年局
		稔りの世代	地産地消料理教室等の講座を定期的に開催。	JA横浜		
		全世代	・講座や講演・コラム等を通じて啓発を実施	ユカナガシマクッキングサロン	・企業や団体等と連携した食育情報の発信や食に関するイベント等の実施を通じた啓発	健康福祉局・区

推進テーマ	市の目標	対象世代	関係機関・団体の取組	関係機関・団体	行政としての取組	関係局	
食の安全と環境に配慮した食育の推進	13 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民を増やす	育ち・学びの世代	居場所作りカフェ等を通じて、誰でもが閲覧して実践できるような資料を用いて啓発する	ユカナガシマクッキングサロン	・食に関する正しい知識習得に向け、学生に身近な給食献立表や給食だよりを活用した啓発を実施 ・食中毒予防についての相談支援や食品による窒息事故予防の周知といった乳幼児健康診査と連携した啓発を実施	こども青少年局 健康福祉局	
		働き・子育て世代			・区役所の健診と連携した食中毒予防についての相談支援 ・給食だよりで、食中毒やノロウイルス予防について注意喚起	こども青少年局 健康福祉局・区	
		稔りの世代					
		全世代	・食の安全性や知識の向上の為の勉強会 ・区民祭りやイベントを通じ、食中毒予防の啓蒙活動を行っている	横浜ガストロノミ協議会 株式会社 崎陽軒	・食の安全に関する市民イベントの開催、区民祭り等の催事における啓発 ・リスクコミュニケーションの実施 ・食中毒予防等についての相談支援 ・食品衛生講習会の実施 ・動画等を活用したウェブサイトやSNS等時流に沿った方法での情報提供	健康福祉局	
	14 日頃から災害に備え、食料品等の備蓄に努める市民を増やす	育ち・学びの世代					
		働き・子育て世代					
		稔りの世代					
		全世代	・ローリングストックを応用した簡単な家庭料理の料理教室を開催 ・展示会やJDA-DATの活動の周知 ・横浜市防災計画関連機関として食を通じた災害支援に協力 ・災害時の備蓄食品についての動画配信、YouTubeでバッククッキングの動画配信 ・災害時における炊き出しとしての製品（弁当類）の継続的提供や、「ローリングストック法」の認知拡大のため、継続的にカタログ、自社サイトにてローリングストック法を紹介。	はまふうどコンシェルジュ 神奈川県栄養士会 株式会社 崎陽軒	・講座やイベント等で食料品等の備蓄について啓発を実施 ・ローリングストックを中心とした、健康維持できる食料備蓄に関するリーフレットやホームページを活用した啓発を実施	健康福祉局・区	
	15 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民を増やす	育ち・学びの世代	・規格外の野菜や未使用魚（サイズが規格外などの理由で市場にあまり出ない魚のこと）の活用を推進	よこはま学校食育財団 横浜ガストロノミ協議会	・出前教室において廃棄物に関する環境問題について学ぶ「環境学習」を実施するほか、副読本を配布	資源循環局	
		働き・子育て世代	・給食物資納入業者を講師に招き、調理従事者を対象にした食材塾を引き続き開催する。	よこはま学校食育財団			
		稔りの世代					
		全世代	・地元野菜を使った料理教室の開催 ・食育教室や講座等を通じて啓発を実施	横浜ガストロノミ協議会 ユカナガシマクッキングサロン	・イベントにおいて環境に関するクイズや分別体験を実施	資源循環局	
	16 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民を増やす	育ち・学びの世代	・小学校、中学校での講演の際に、「食品ロス」を分かりやすいようにプリントを配布	横浜マリノス（株）	・保育園・幼稚園・小学校等において実施する出前教室において、食の大切さを伝え、食品ロス問題への意識を高める啓発を実施	資源循環局 教育委員会事務局	
		働き・子育て世代	・生産者との懇談会の開催	横浜ガストロノミ協議会			
		稔りの世代	・フードバンクへの協力、フードドライブによる食品の提供	J A横浜			
		全世代	・規格外の野菜や未使用魚の活用を推進 ・フードロス削減の取り組み ・家庭の冷蔵庫の食品ロスに目を向けたクッキング講座を開催 ・生産工程で発生する規格外のサイズや形、余剰となってしまった食材などを使用した弁当を発売し、購入していただくことで食品ロス削減の取組を推進 ・食育教室や講座等を通じて啓発を実施	横浜ガストロノミ協議会 はまふうどコンシェルジュ 株式会社 崎陽軒 ユカナガシマクッキングサロン	・区民まつり等のイベントや啓発キャンペーン等の機会を捉え、食品ロスの現状や削減につながる実践行動についての啓発 ・SNSや広報誌を活用し、食品ロス削減に関する情報を幅広く発信する	資源循環局	

第3期健康横浜21 策定スケジュール（予定）

資料7

	令和4年度				令和5年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
市会					第2回定例会 骨子案	第3回定例会 素案	第4回定例会 パブコメ報告	第1回定例会 議案審議
健康横浜21 推進会議		● 9/2		● 3/29	委員改選	● 8月(仮)	● 12月(仮)	
評価策定部会		● 8/1	● 11/30	● 2/15	委員再任・ 部会設置期間延長	→		
主な作業	○最終評価報告書公表	○健康課題の抽出	○目標・指標と取組の検討	○骨子案作成	○素案作成		○議案エントリー ○パブコメ実施	○策定公表
歯科部会		● 7/13	● 10/24		委員再任・ 部会設置期間延長	→		
主な作業		○骨子案の検討 ○健康課題の検討 ○目標・指標の検討	(7月部会の続き) ○取組内容の検討 ○素案の検討		○素案作成 ○具体的方策の検討		○議案エントリー ○パブコメ実施	○策定公表
食育部会		● 7/22		● 1/20	委員再任・ 部会設置期間延長	● 7月(仮)	● 11月(仮)	
食環境検討会		● 6/21	● 9/21	● 11/17	開催時期未定			
主な作業		○骨子案の検討 ・基本理念、基本目標、推進 テーマ ・目標と指標 ・取組内容	○食環境整備にかかる具体的 取組の検討	(7月部会の続き) ○素案原案の検討 ○推進テーマごとの取組内容 の検討	○素案作成 ○具体的方策の検討		○議案エントリー ○パブコメ実施	○策定公表
国の動向（予定） 【健康日本21】		8月：次期プラン 検討開始 9月：全体の方向性の検討等	10月：指標の検討等 11月：指標の検討、プラン骨 子案等 12月：プラン素案	1月：プラン最終案 3月：プラン案の最終審議	都道府県・市町村が健康増進計画を策定 春 次期プラン公表			
国の動向（予定） 【基本的事項】		8月 最終評価案の最終審議 →次期基本的事項 検討開始			都道府県・市町村が基本的事項（横浜市では計画）を策定 春 次期基本的事項 公表			